

ら出土しており注意を要する。

時期と性格 時期は、遺物が少なく判然としないが、石棺周辺で土師器のみが共伴し須恵器が認められないこと、出雲地方の水品製勾玉の生産は古墳時代中期に顕著であること等から古墳時代中期頃の所産に位置づけておきたい。

1号石棺墓の棺内構造は、石蓋土壊墓との構造的な類似性を示唆する特異なものであった。こうした棺内構造は、当地方では、ほとんど類例を見ないものといえる。

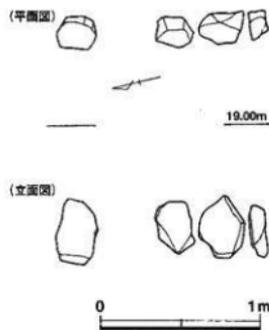
第3節 北Ⅲ区の遺構と遺物

概要 (第85図) 標高約17~23mを測る尾根筋の西向きの緩斜面を全面調査した。遺構としては、最近まで使用されていた小道と貼石状の石列のみを検出した。遺物としては、弥生土器片数点を調査区西端付近から検出した。

基本層序 北Ⅰ区、Ⅱ区同様、表土以下地山面までの土砂堆積は約10~30cmと浅く、木痕が著しくはびこる暗褐色土が単層堆積していた。なお、調査区下端付近には、その下層に黒褐色土層が検出されており同層は弥生土器片等を包含する遺物包含層と認識された。しかし、調査区下方には住宅が近接しているため、これより西方斜面の調査は断念した。遺構検出面は明確な地山面であった。

主な遺構 (第86図) 標高18.25mを測る斜面上において、上方の斜面に対してほぼ垂直方向に立ち並ぶ石列が検出された。北Ⅰ区1・2・3号墓の貼石と近似する大きさ、形状の板状の割り石4枚をほぼ同様に並べている。岩種は同じ安山岩と推定される。周辺地形は既に削平や上砂流失によってⅡ地形を留めていないものと判断されたが、この付近に、北Ⅰ区の墳丘墓と類似する配石構造をもつ遺構が存在した可能性を示唆するものとして注意を要する。時期は、遺物が共伴せず詳細不明である。

主な遺物 (第84図-2) 先述した調査区下端付近の包含層から出土した弥生土器の底部片である。底部の約4分の1が残存し、復元底径6.8cmを測る。器表は風化が著しく調整は不明瞭である。焼成は良好で、内外面明褐色(外面一部に黒斑)を呈する。胎上には径2~5mmの白色砂粒を含む。時期は詳細不明である。



第86図 北Ⅲ区石列実測図(S=1:30)

(註1) 鉄鏝については、主として以下の文献を参考にした。

大村 直「弥生時代における鉄鏝の変遷とその群像」『考古学研究』30-3(1983年)

池浦俊一「山陰における弥生時代鉄器の様相」『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』鳥根崇教育委員会(1998年)

池浦俊一「鳥根県下における弥生時代鉄器の様相」『考古学ジャーナル』467(2000年)

(註2) いわゆる弥生墳墓における「供献土器」の理解については、供献の意味をめぐって諸見解がある。本書では墓上をはじめ墳墓周辺から出土する土器類について便宜的に使用する。

渡邊貞幸「弥生墳丘墓における墓上の祭儀」『鳥根考古学会誌』10(1993年)

広瀬和雄「供献土器の意義」『季刊考古学』第67号(1999年)

第6章 小 結

今回の主な調査成果と課題について概括し若干の所見を述べてまとめにかえる。

<古墳時代の石棺墓・石蓋土壌墓群について>

南区西半部及び北Ⅱ区からは、古墳時代後半期と推定される石棺墓5基、石蓋土壌墓1基が検出された。いずれも明確な墳丘を伴わず、周溝らしき小溝を伴うものは北Ⅱ区1号石棺墓1基のみであった。それぞれの規模や構造は多様性を示しており、一定してはいなかったが、その尾根上の立地、石棺材の岩種（板状節理した安山岩の割石）には共通性が認められた。各墳墓は近接して築かれており、共通の墓制を採用している点においても強い相関性がうかがえる。

なお、南区3号石棺墓・北Ⅱ区1号石棺墓を除く、その他の墳墓については、埋葬主体内法の長軸径が0.6～1.1mと極めて小規模であった点が注目される。これが、小児埋葬によるものか、それ以外の要因（例えば成人の屈葬、あるいは洗骨葬など）によるものかは判断がつかなかったが、今後の重要な検討課題といえる。

出雲地方における古墳時代後半期の、こうした明確な墳丘を持たない石棺墓群の発見はこれまでにほとんど類例が無かった。こうした墓制がどのような分布状況を示すものなのか、宍道湖南東沿岸部とりわけ土湯町布志名周辺の地域色を示唆するものなのか、など類例の集積を図り検討していく必要がある。

<弥生時代後期後半の土壌（木棺）墓群について>

南区東半尾根部及び北Ⅰ区尾根頂部付近で見つかった土壌（木棺）墓群は、それらの近接する位置関係、共通するいわゆる「標石」・「供献土器」類の出土状況、付近で出土した弥生土器の諸様相から、ほぼ同時期の所産と推定された。一部の墓上周辺から出土した弥生土器に依拠すれば、弥生時代後期後半（松本編年出雲・隠岐V-3様式）を中心に後期終末（同V-4様式）頃にかけての土壌（木棺）墓群に位置づけられる。

ただし、本文中でも言及したように、いずれの土壌（木棺）墓も丘陵頂部平坦面にほぼ平行・近接し、規則的な配置で築かれていること、南区東半部については、SD01が墳墓を囲む周溝的な機能を果たしている位置に掘られていること、北Ⅰ区土壌（木棺）墓群については東西に弥生墳丘墓が隣接することなどからして、総じて弥生墳丘墓の主体部を形成していた可能性もうかがえた。その視点で周辺地形を見直せば、いずれも長方形を基調とする墳丘プランを推定することも可能であろう。

当該期の出雲地方の弥生時代墳墓には、土壌墓、木棺墓、石棺墓のほかに、それらを埋葬主体部とする貼石をもつ方形墳丘墓、貼り石をもたない墳丘墓、四隅突出型墳丘墓等の諸形態が存在する。言うまでもなく、本土壌（木棺）墓群を単独の土壌墓群と捉えるか、弥生墳丘墓の主体部と捉えるかによって、その評価（例えば、墳墓形態にみる被葬者の階層性など）に、大きな差異が生じるものと思われる。

なお、南区東半尾根部の上塚墓4基の推定頭位方向は、3基が北方向、1基が南方向であった。これに対し、北Ⅰ区の土壌（木棺）墓5基は、全て南方向であった。これは、近在する墳丘墓の

1号墓・2号墓・3号墓・4号墓で検出された埋葬主体である土壇（木棺）の頭位方向と全く共通している。このことは、当該期の同一丘陵上における埋葬形態、葬送の観念にかなりの共通性、さらに言えば規制が働いていたことを示唆する現象として捉えておきたい。また、これに関連して、いわゆる「供献土器」や「標石」と推定される遺物も複数の土壇（木棺）墓、墳丘墓の埋葬主体直上付近から出土しており、共通の埋葬儀礼の存在を想起させる。これについては、後述することにした。

<弥生時代の四隅突出型墳丘墓について>⁽⁷¹⁾

北Ⅰ区の丘陵頂部平坦面付近からは、貼石を伴う四隅突出型墳丘墓1基（北Ⅰ区1号墓）、その可能性が高いもの2基（北Ⅰ区2号墓・同3号墓）を検出した。いずれも、墳頂部及び突出部の遺存状況が不良で明瞭な形態は推察しかねた。遺存状況に左右された可能性もあるが、いずれも出雲地方の四隅突出型墳丘墓に通用の列石は検出されなかった。調査時の所見では、本来存在しないものと推定された。

築造時期は判然としないが、北Ⅰ区1号墓及び2号墓付近から出土した土器の細小片はいずれも、弥生時代後期後半（松本編年出雲・隠岐V-3様式）頃の様相を呈し、近接する北Ⅰ区3号墓も含めて、おそらくはその頃の所産と推察される。

副葬品と推察される遺物はほとんどなく、北Ⅰ区1号墓第2主体部の土壇底面付近から、少量の木銀朱が出土したのみである。出雲地方の四隅突出型墳丘墓の主体部内から朱が検出された事例は、出雲市西谷3号墓が著名であるが、朱を使用する共通の観念、儀礼の存在が想起され看過できない事例である。

また、墓上からのいわゆる「供献土器」あるいは「標石」と称される遺物の出土も少なかった。北Ⅰ区1号墓からは、墳頂部周辺から弥生土器片数点、第1主体部墓壇上層から人為的な擦痕のある角礫1点を検出し、北Ⅰ区2号墓墳頂部の墓壇上攪乱土中から弥生土器片数点と楕円形状を呈する白然石1点を採取しただけである。これは、墳頂部が攪乱・削平等の影響を受けた結果かもしれない。

なお、注目すべき資料として、北Ⅰ区1号墓第1主体部の東側に近接する地山直上面（墳丘盛土直下）から出土した鉄鏃2点（第51図-11・12）があげられる。本文中で述べたように、偶然的混入とは考えが難く、墳丘築造のある過程において意図的に埋納されたものと推定される。

管見では、鉄鏃が弥生墳丘墓の埋葬施設外に埋納された事例を他に知らない。この遺物の用途については、今後も十分検討していく必要がある。

この度、検出された3基の四隅突出型墳丘墓は、その遺存状況を考慮しても、北Ⅰ区1号墓が、墳丘規模、配石構造のあり方、主体部、副葬品において、2号墓・3号墓よりも秀でていた。1号墓が当遺跡の弥生時代墳墓群において中心的な位置づけを担ったものと解して大過ないだろう。

さて、これら1～3号墓の発見は、八東郡玉湯町内では初めての例であるが、規模的には、これまでに見つかった四隅突出型墳丘墓（一覧表参照）と比較すると、いずれも中小規模以下に分類される。

年代的には、四隅突出型墳丘墓が最も多く築造された時期（松本編年出雲・隠岐V-3様式）の所産に位置づけられる。とりわけ、出雲地方においては、出雲平野、安来平野縁辺の丘陵部を中心に径20mを超える大規模なものが出現、発展する、いわば、大型化が顕著な時期にあたる。こうした様相の中、穴道湖東南岸における中小規模の四隅突出型墳丘墓群が発見されたことは、今後当該

地域の弥生墓制を研究するうえで重要な意味を持つものである。

<断面V字状石列を伴う墳丘墓について>

北Ⅰ区4号墓は、断面V字状を呈する特異な配石構造の石列をもった方形基調の墳丘墓と推定された。時期を示唆する遺物は伴出しなかったが、他の墳墓（北Ⅰ区1号・2号・3号墓及び土壌（木棺）墓SK04～08）と隣接する立地状況、共通の石材（岩種）による配石、類似する石の貼り方などから、他の墳墓とほぼ同時期で弥生時代後期後半頃を中心とする時期の墳丘墓の一種と推定された。このように特殊な配石構造を持つ弥生墳丘墓は管見では例を見ない。如何なる系譜の中で、このような墳墓形態が生まれたのか、同一丘陵に立地する四隅突出型墳丘墓とは如何なる関係性があるのか等々、今後解明すべき課題は多い。

<墓壇上出土のいわゆる「標石」類について>

当遺跡では、南区東半尾根部のSK02、北Ⅰ区1号墓第1主体部、同2号墓主体部直上攪乱土層、北Ⅰ区SK05、同SK07、同SK08から、墓壇埋め戻し後に墓上に置かれたものと推定される種々の磨製石器や自然の礫石類が検出された。本来は、この他の墓壇上に存在した可能性も否定できないが、既述のとおり後世の削平や攪乱により判然としなかった。

これら墓上出土の石器や自然石の類は、一般に「標石」と呼ばれることが多いが、この名称は「墓標」としての限定的な機能を示唆する印象があり、適切な表現とは言い難い。しかし、他にふさわしい呼称が見あたらず、本稿では、便宜的かつ暫定的に、いわゆる「標石」と一括して呼称することにした。

さて、いわゆる「標石」の出土は、かねてより弥生時代後期中葉から古墳時代前期にかけての山陰を中心とする地域の墳墓において類例が知られてきた。近年、大谷晃二氏によってその集成作業もなされている⁽⁴²⁷⁾。

一般に、いわゆる「標石」の多くは、「供献土器」⁽²⁸³⁾と称される土器類と伴する事が多く、墓上から1～2点出土する傾向にある。出土する墳墓の形態も墳丘墓から単独の土壇墓まで多岐にわたっている。「標石」の種類も石片や磨石と呼ばれる類似性のある磨製石器類をはじめ大小様々な自然石から成る場合もあって多様である。

これらの性格をめぐっては、多くの研究者が指摘するように、いわゆる「供献土器」「標石」類の出土状況及び遺物自体の共通性・類似性から察するに、山陰地方を中心とする当該期の特定の墳墓上における共通の儀礼的行為の痕跡を示唆するものと理解して問題なかろう。しかし、被葬者を埋葬し埋め戻した墓壇上で如何なる祭祀儀礼がどのような観念のもとに執行されたかについては、未だ判然としない。

さて、当遺跡での出土事例を整理すると次表のとおりとなる。

表示の通り、出土地点は、南区SK02が墓壇中央部であるほかは、全て中央部のやや南寄り、すなわち推定される頭位方向寄りさらに言えば被葬者の頭～胸部上方に当たる共通性が認められる。また、その出土状況においては、直立して出土した事例も複数認めることができた。

いわゆる「標石」そのものについては、明らかに人為的な擦痕、敲打痕等の使用痕の認められる石片、磨石と称すべき磨製石器もあれば、全く認められない自然石もあり、形状、大きさも多種多

様であった。また、複数の遺構では、それら磨製石器と自然石がセットで出土している。

共存遺物については、遺構の遺存状態に左右されるため単純な評価は躊躇せざるを得ないが、鼓形器台、器台といった器種の弥生土器片が顕著に認められた。

このように、当遺跡の出土事例については、その諸属性において、既知の類例と特に大きく異なる傾向は認められなかった。しかし、同一丘陵上に近接・近在するほぼ同時期の異なる形態の墳墓上においても、多種多様な「標石」が並存することがあらためて認識されたこと、類似もしくは共通の道具立て、祭式、観念に基づく儀礼的行為が行われていた蓋然性が高まったことの意義は大きいものがあるといえよう。

表. 布志名大谷Ⅱ遺跡におけるいわゆる「標石」出土事例一覧

〈遺構名〉	〈遺構の種類〉	〈出土地点・状況〉	〈「標石」類の種類・形状・大きさ・岩種ほか〉	〈共存遺物〉	〈時期〉
南区SK02	土城墓	墓棟中央部に石柁1が直立、円礫も近在、墓棟北端部に角礫2が直立	・石柁17.5cm、擦痕敲打痕有 ・円礫、楕円形11.4cm、自然石	弥生土器細小片	弥生後期後半頃?
北1区1号墓 第1主体部	四隅突出型墳丘墓 土城	墓棟中央やや南寄りに角礫1が横置(頭位方向寄り)	・角礫15.6cm、擦痕有、花崗岩	なし	弥生後期後半頃
北1区2号墓 主体部直上	四隅突出型墳丘墓木棺(土版)	墓棟直上掘乱上層から採取	・楕円形礫8.5cm、自然石、緋色花崗岩	弥生土器小片(鼓形器台、壺甕底部)	弥生後期後半頃
北1区SK05	木棺(土版)墓	墓棟中央やや南よりに磨石1、角礫1が直立(頭位方向寄り)	・磨石15.3cm、擦痕敲打痕有、閃緑岩、ハンレイ岩 ・角礫21.3cm、自然石、安山岩	弥生土器小片(鼓形器台)	弥生後期後半頃
北1区SK07	木棺(土版)墓	墓棟中央やや南よりに磨石1(頭位方向寄り)	・磨石9.0cm、擦痕敲打痕有、角閃石デイスサイトか角閃石安山岩	弥生土器片(鼓形器台、器台)	弥生後期後半頃
北1区SK08	木棺墓	墓棟中央やや南よりに板状石1(頭位方向寄り)	・板状石24.8cm、自然石、安山岩	弥生土器小片(器台)	弥生後期後半頃

(注1) 出雲地方の四隅突出型墳丘墓及び弥生の墳墓に関しては、主として、下記文献(1985年以後に限る)を参考にした。なお、紙幅の都合により、各遺跡ごとの報告書は割愛した。

近藤俊郎「四隅突出型墳丘墓の出現と変遷」『季刊文化財』53 鳥根県文化財愛護協会(1985年)

東森市良「四隅突出型墳丘墓」ニューサイエンス社(1989年)

鳥根大学法文学部考古学研究室「山陰地方における弥生墳丘墓の研究」(1992年)

渡邊貞幸「弥生墳丘墓における墓上の祭儀—西谷3号墓の調査から—」『鳥根考古学会誌』10(1993年)

渡邊貞幸「『出雲連合』の成立と再編」『古代王権と交流』7 名著出版(1995年)

第25回山陰考古学研究会事務局「四隅突出型墳丘墓とその時代」(1997年)

渡邊貞幸「加茂岩倉遺跡と四隅突出型墳丘墓」『加茂岩倉遺跡と古代出雲』季刊考古学・別冊7 雄山閣(1998年)

松井 潔「因幡・伯耆・出雲の墓制」『季刊考古学』第67号 雄山閣(1999年)

会下和宏「西日本における弥生墳墓副葬品の様相とその背景」『鳥根考古学会誌』17

(注2) 大谷Ⅱ区第Ⅱ部 千年比丘山群の調査 3、総括「波佐一島根県那賀郡金城町波佐地区における考古学的調査—」金城町教育委員会(1994年)

(注3) 本書111頁の(注2)参照

四隅突出型墳丘墓一覧

以下の表は島根大学考古学研究室のホームページ (<http://www.hist.shimane-u.ac.jp/kouko/>) における渡邊貞幸氏作成資料を引用し、一部加筆したものである。

今日までに確認された四隅突出型墳丘墓の一覧表であるが、一部に不確定なものも含まれている。なお、時期については、弥生時代をⅠ期からⅥ期に分ける考え方を採用した。Ⅳ期は中期後葉、Ⅴ期とⅥ期が後期であり、Ⅵ期はほぼ畿内の庄内式併行である。

所在地	旧国	遺跡名	規模(m)	時期	墳頂主体	備考
1 広島県三次市南畑敷町	備後	宗祐池西1号	10×5	Ⅳ期	土塚3	祖型か
2 広島県三次市南畑敷町	備後	宗祐池西2号	3.8×	Ⅳ期	土塚3	祖型か
3 広島県三次市四拾貫町	備後	陣山1号	5.2×3.5	Ⅳ期		
4 広島県三次市四拾貫町	備後	陣山2号	12.7×6.3	Ⅳ期		
5 広島県三次市四拾貫町	備後	陣山3号	6×3.6	Ⅳ期		
6 広島県三次市四拾貫町	備後	陣山4号	9×4.6	Ⅳ期		
7 広島県三次市四拾貫町	備後	陣山5号	4.5×3	Ⅳ期		
8 広島県三次市大田幸町	備後	殿山38号	13×6.5	Ⅳ期	土塚1	
9 広島県三次市大田幸町	備後	殿山39号				未調査
10 広島県三次市東酒屋町	備後	欠谷1号	18.5×12	Ⅴ期	木棺8石棺2土塚1	長方形?
11 広島県三次市栗原町	備後	岩脇1号			石棺、石蓋土塚	
12 広島県三次市栗原町	備後	岩脇2号				
13 広島県庄原市高町	備後	佐田谷1号	19×14	Ⅴ期-1	木棺1木棺3	
14 広島県庄原市山内町	備後	田尻山1号	11×9	Ⅴ期-1	木棺1	
15 広島県千代田町南方	安芸	歳ノ神3号	10.3×	Ⅴ期-2-3	石棺2	
16 広島県千代田町南方	安芸	歳ノ神4号	10.2×	Ⅴ期-2-3	石棺6	
17 岡山県鏡野町竹田	美作	竹田8号	14×	Ⅴ期-1-2	土塚14土器箱4	?
18 島根県瑞穂町下龜谷	石見	順庵原1号	11.5×9	Ⅴ期-2	石棺2木棺1	
19 島根県出雲市大津町	出雲	西谷1号		Ⅴ期-3	木棺4	
20 島根県出雲市大津町	出雲	西谷2号	35×24	Ⅴ期-3		
21 島根県出雲市大津町	出雲	西谷3号	40×30	Ⅴ期-3	木塚2木棺6+	
22 島根県出雲市大津町	出雲	西谷4号	34×27	Ⅴ期-3		
23 島根県出雲市大津町	出雲	西谷6号	17×	Ⅴ期?	土塚4+	
24 島根県出雲市大津町	出雲	西谷9号	42×35	Ⅴ期?		未調査
25 島根県鹿島町南講武	出雲	南講武小塚		Ⅴ期?		?
26 島根県松江市浜乃木町	出雲	友田	12×	Ⅴ期-1?		?
27 島根県松江市矢田町	出雲	求美	10×8	Ⅴ期-3	木棺1土塚6	
28 島根県松江市矢田町	出雲	間内越1号	8.8×6.7	Ⅴ期		
29 島根県松江市八幡町	出雲	的場	13以上×	Ⅴ期-3	土塚1	?
30 島根県東出雲町出雲郡	出雲	大木鹿嶋山1号	23×12	Ⅴ期-2	土塚5	?
31 島根県安来市西赤江町	出雲	仲仙寺8号	18×14			未調査
32 島根県安来市西赤江町	出雲	仲仙寺9号	19×16	Ⅴ期-3	木棺3	
33 島根県安来市西赤江町	出雲	仲仙寺10号	19×19	Ⅴ期-3	木棺4土塚7	
34 島根県安来市西赤江町	出雲	富山4号	19×15	Ⅴ期-2	木棺1	
35 島根県安来市西赤江町	出雲	安養寺1号	20×16	Ⅴ期-2	木棺2土塚2	
36 島根県安来市西赤江町	出雲	安養寺3号	30×20			
37 島根県安来市久白町	出雲	塩津山6号	29×26			未調査
38 島根県安来市久白町	出雲	瑞津山10号	34×26			未調査
39 島根県安来市西赤江町	出雲	下山	20×17	Ⅴ期?		未調査
40 島根県杵大町安田	出雲	カウカツ-1の1号	11×7	Ⅴ期-3		
41 島根県木子市尾高	伯耆	尾高瀬山1号	10×7	Ⅴ期-1		

42	鳥取県米子市日下	伯耆	日下1号	10×7	V期-2	木箱4	
43	鳥取県溝口町父原	伯耆	父原1号	12×	V期-2	石箱1+	
44	鳥取県溝口町父原	伯耆	父原2号	9.5×6	V期-2	木箱2	貼石なし
45	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原1号	6.5×5.4	V期-1		
46	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原3号	4.3×3.5	V期-1		
47	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原4号	3.8×3.1	V期-1		
48	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原5号	2.2×1.7			
49	鳥取県大山町高岡	伯耆	洞ノ原7号	4.3×4.0	V期-2		
50	鳥取県大山町高岡	伯耆	洞ノ原8号	4.8×4.5	V期-2		
51	鳥取県大山町高岡	伯耆	洞ノ原9号	1.8以上×	V期-1		
52	鳥取県大山町高岡	伯耆	洞ノ原10号	2.0×1.4			
53	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原11号	1.5×1.2	V期-1		
54	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原12号	1.1×1.1			
55	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原13号	1.3×1.2			
56	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原15号	1.6×			?
57	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原16号	1.3×1.3			?
58	鳥取県淀江町福岡	伯耆	洞ノ原17号	1.3以上×			?
59	鳥取県大山町宮岡	伯耆	洞ノ原18号	1.8×			?
60	鳥取県大山町高岡	伯耆	仙谷1号	13×13?	V期-2		
61	鳥取県大山町宮岡	伯耆	仙谷2号	7.4×7.2	V期-2		
62	鳥取県大山町長田	伯耆	徳楽	19×19	V期-2		未調査
63	鳥取県倉吉市上神	伯耆	栄栄		V期-2		?
64	鳥取県倉吉市下福田	伯耆	阿弥大寺1号	14×	V期-2	木箱1土壌1+	
65	鳥取県倉吉市下福田	伯耆	阿弥大寺2号	6×	V期-2		
66	鳥取県倉吉市下福田	伯耆	阿弥大寺3号	6×	V期-2		
67	鳥取県倉吉市山根	伯耆	御印	10×8.5		木箱1	
68	鳥取県東郷町宮内	伯耆	宮内1号	17×	V期-2	木箱4	
69	鳥取県鳥取市桂見	因幡	西桂見	40以上×	V期-3	木箱1+	
70	鳥取県田代町糸谷	因幡	糸谷1号	14×12	V期-2	木箱2土壌9	
71	兵庫県加西市網引町	播磨	周遍守山1号	9.5×6		石箱2	?
72	兵庫県丹波市船木町	播磨	船木南山	14×	V期?	石箱2木箱1	?
73	福井県丹生郡清水町	越前	小羽山30号	26×22	V期-3	木箱1	貼石なし
74	福井県丹生郡清水町	越前	小羽山33号	7×5	V期-3	木箱1	貼石なし
75	福井県丹生郡清水町	越前	風冷2号	25×			未調査
76	福井県丹生郡清水町	越前	風巻4号	17×16			未調査
77	福井県福井市高橋町	越前	高柳2号	6.2×5.5	V期-1		貼石なし
78	福井県吉田郡松岡町	越前	南存日山1号	40×29	V期-3		貼石なし
79	石川県松任市一塚町	加賀	一塚21号	18×18	V期-1		貼石なし
80	富山県婦負郡婦中町	越中	富崎1号	18×18	V期-2		貼石なし
81	富山県婦負郡婦中町	越中	六治古塚	23×	V期-2		貼石なし
82	富山県富山市杉谷	越中	杉谷4号	25×25	V期-2		貼石なし
83	富山県富山市古沢	越中	鳥羽山丘陵No.6	19×19			未調査
84	富山県富山市古沢	越中	鳥羽山丘陵No.10	23.5×22			未調査
85	富山県富山市金原	越中	鳥羽山丘陵No.18	25×23			未調査
86	鳥取県那賀郡北川町	岩代	越ノ内1号岡岡墓	9×8	弥生末-古墳期		西沢文出年岡岡墓
87	鳥取県隠岐郡西郷町	隠岐	大城	18×11	V期-3~V期-1	木箱1+	
88	鳥取県玉湯町布志名	出雲	布志名大谷Ⅰ号	10.5×7.7	V期-3	木箱1土壌3	
89	鳥取県玉湯町布志名	出雲	布志名大谷Ⅱ号	6.5×5m以上	V期-3	土壌1	?
90	鳥取県玉湯町布志名	出雲	布志名大谷Ⅲ号	2.3以上×		土壌1	?

図 版

凡 例

遺物写真の番号（○—△）は、
本文中の実測図番号（第○図△）
に対応する。



1、南区東半部 尾根頂部付近調査前全景（東方向から）



2、同 マウンド状地形調査前全景（東方向から）

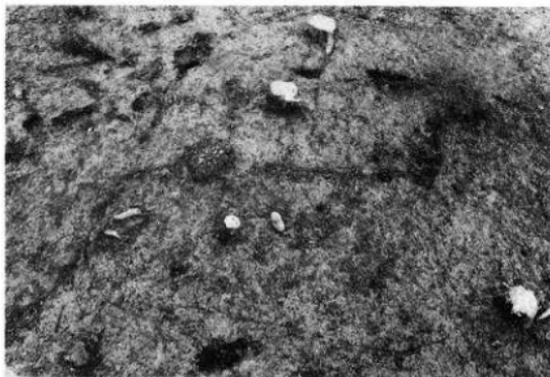


南区東半部 尾根頂部付近土壇群SK01・02, SD01, SK03・04 (東方向から)

1、南区 SK01完掘状況
(東方向から)



2、同 SK02検出状況
(西方向から)



3、同 SK02石杵・円礫出土
状況 (西方向から)





1、南区 SK02石柱・礫石
出土状況（北方向から）



2、同 SK02発掘状況
（東方向から）

1、南区 SK03 (手前)・
04 (奥) 完掘状況
(東方向から)



2、同 SK03完掘状況
(北方向から)



3、同 SK04完掘状況
(東方向から)



図版 6



1、南区 SK04完掘状況
(北東方向から)



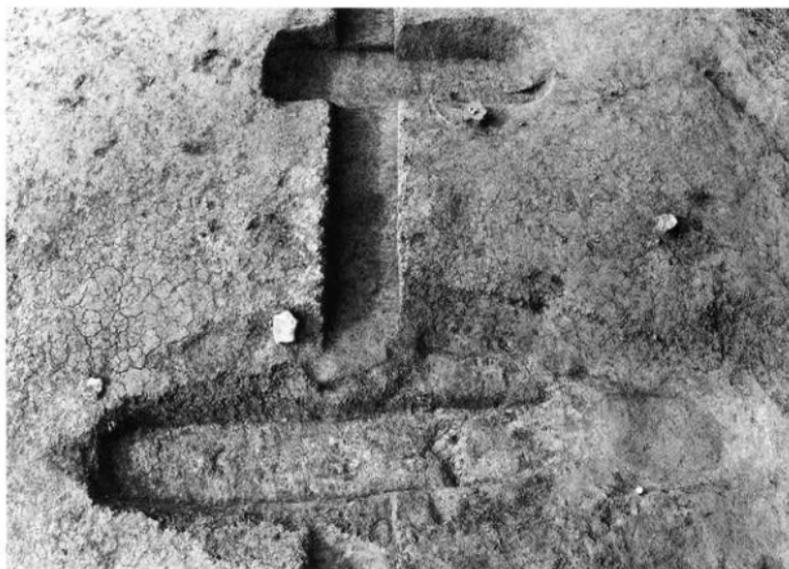
2、同 SD02検出状況
(北方向から)



3、同 SK02完掘状況
(南方向から)



1、南区 SD01礫石出土状況（東方向から）



2、同 SD01完掘状況（奥はSK03）（東方向から）



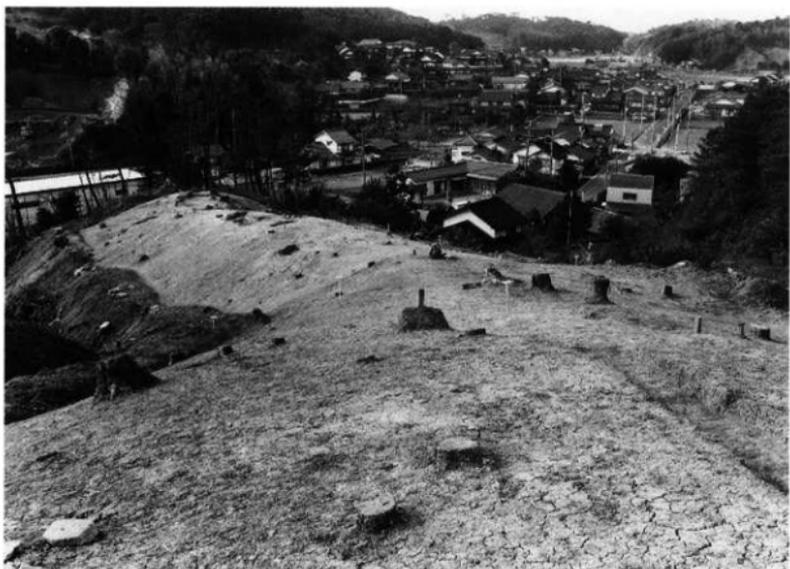
1、南区東半部 マウンド状地形・SD03 (南東方向から)



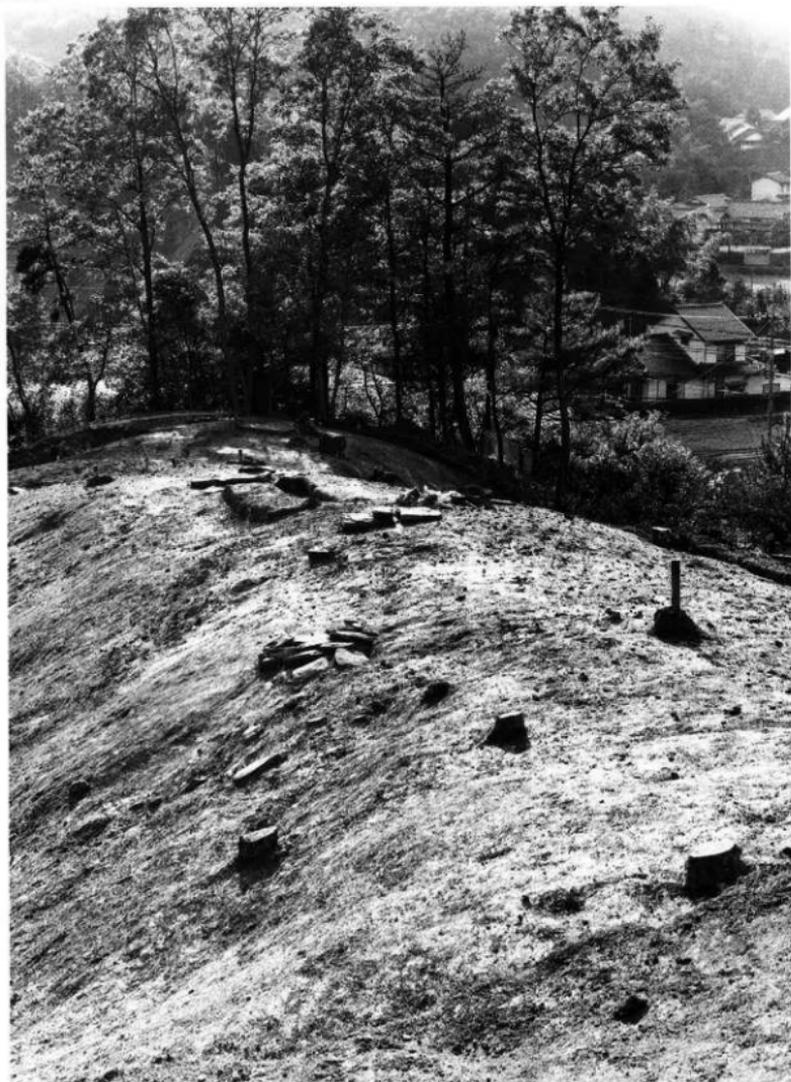
2、同 (東方向から)



1、南区西半部 調査前全景（東方向から）



2、同 調査後全景（東方向から）



南区西半部 石棺墓, 石蓋土墳墓, 土墳 検出状況全景 (東方向から)



1、南区 1号墳調査前全景（東方向から）



2、同上 主体部土壌検出状況（北方向から）



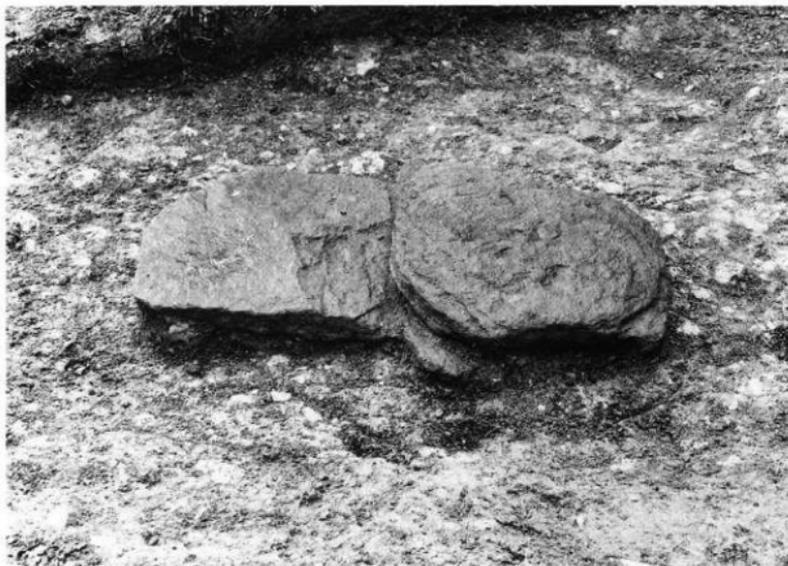
3、同左 完掘状況（北方向から）



1、南区 1号墳調査状況（東方向から）



2、同 調査後全景（東方向から）



1、南区 1号石棺蓋石検出状況（北方向から）



2、同 石棺内（北方向から）



1、南区 2号石棺墓蓋石
検出状況（西方向から）



2、同（南方向から）

1、南区 2号石棺墓内
調査状況 (南方向から)



2、同 石棺内
(東方向から)





1、南区 2号石棺基底石
検出状況(南方向から)



2、同 墓壇掘り方
(東方向から)



1、南区 3号石棺蓋石検出状況（北方向から）



2、同（西方向から）



3、同 石棺開蓋状況（西方向から）



1、南区 3号石棺墓須恵器出土状況（北方向から）



2、同 近景（北東方向から）



南区 3号石棺墓石棺内 (西方向から)



1、南区 3号石棺基底石
検出状況（北方向から）



2、同 墓横掘り方
（西方向から）



1、南区 4号石棺墓蓋石検出状況（北東方向から）



2、同 石棺開蓋状況（北西方向から）



3、同 石棺内（北西方向から）



1、南区 4号石棺墓石棺内
(北東方向から)



2、同 墓墳掘り方
(西方向から)

1、南区 1号石蓋土墳墓
検出状況
(北西方向から)



2、同 土墳内
(北東方向から)





1、南区 1号石蓋土墳墓
蓋石検出状況
(南方向から)



2、同上 (手前に須恵器)
(東方向から)



3、同上 須恵器出土状況
近景 (東方向から)

1、南区 SK05 (手前)、
3号石棺墓基壇完掘状況
(奥) (北東方向から)



2、同 SK05完掘状況
(南東方向から)





1、北Ⅰ区 東半調査前全景（西方向から）



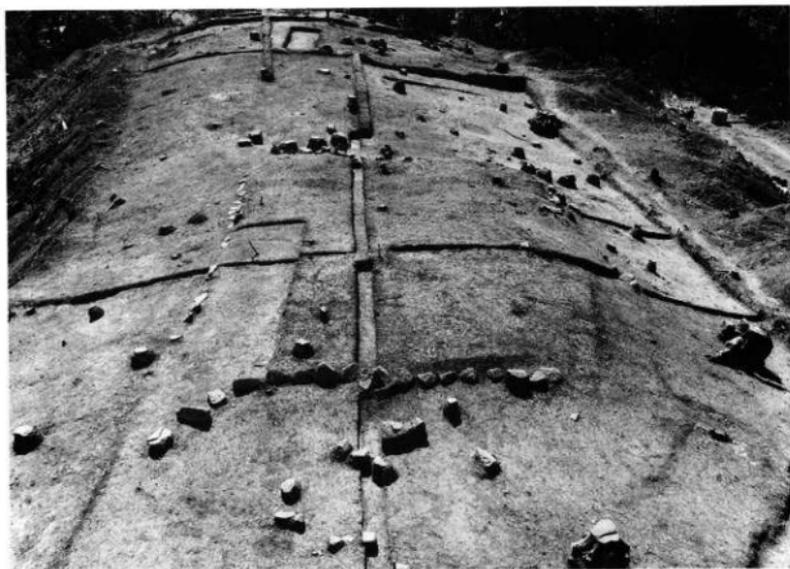
2、北Ⅰ区 調査前全景（東方向から）



1、北I区 1号墓トレン
チ調査・南東隅貼石検
出状況（東方向から）



2、北I区 西半調査前近景
（東方向から）



1、北Ⅰ区1号墓 貼石検出状況(東方向から)



2、同上(西方向から)

1、北Ⅰ区1号墓 東辺貼石
検出状況（東方向から）



2、同上（北東方向から）



3、同上（南東方向から）





1、北I区1号基 西辺貼石
検出状況（西方向から）



2、同上（北西方向から）



3、同上 南辺貼石検出状況
（南西方向から）

1、北I区1号墓 北辺貼石
検出状況（北方向から）



2、同 東溝内土層堆積状況
（南方向から）



3、同 西溝内土層堆積状況
（南方向から）

